

平成25年12月22日

第57号 ひろしま自主防災研究会

日時：2013.12.21(土)/22(日)

会場：三原市館町 2-5-2

ゆめキャリアセンター多目的ホール

主催：広島県、一般財団法人日本防火・防災協会

参加者：ひろしま防災リーダー（広島県防災士（H21～H25 登録者）など）64人

以下それぞれ講演、説明、研修の要点をまとめ会員の活動状況として支部会報とする；

1. リーダー資質向上のために

講師：昭和女子大学教授 山崎洋史氏

① 科学的教育指導

- ・講義構成は始め、中、後段の3段階とある場合、重要なことは始めと後段に話す事が多く、効果がある
- ・知識取得には時間が掛かる
- ・効果的に人を導く方法はコーチの一言は重要

② 教育・学習

- ・人は良い経験をすれば変わって行く、いくつになっても変わる
- ・教育は知識と行動できる人を育てること

③ リーダーシップとは

- ・先に立って歩む人、フォロアーの存在があってリーダーは意味づけられる
- ・与えられた状況で目的達成に向けて個人または集団の行動に影響を与えるプロセス、環境との関係でリーダーが誕生

④ コミュニケーションとは

- ・受け止めてくれる、認め合う/人は分かってくると楽になり安心する/聞いてあげると気持ちが繋がる
- ・指導教育とはつながる、伝える、高める

⑤ ピグマリオン効果

- ・「はじめに良いイメージありき」
- ・指導者が「できる」と思っている者は伸びる
- ・若いものを伸ばすには期待を掛けること、素晴らしいイメージを持って教育する



山崎洋史講師

2. 広島県「土砂災害ポータル」の使い方講座

講師： 広島県土木局砂防課

- ・他人ごとではない土砂災害
- ・危険個所を知る、情報収集、避難場所
- ・過去の災害から助かった人の話を聞く
- ・「ひごろの備え」と「早めの避難」で土砂災害から身を守る方法を習得する

3. 広島県地震被害想定結果の概要 講師：広島県危機管理監消防保安課

- ・南海トラフ巨大地震による広島県被害想定結果についての説明
- ・広島県の被害想定は地震、津波共に大きく、正しく理解し、適切な対応で防災、減災に取り組む事の重要なことを示す
- ・具体的な防災、減災対策の効果事例も資料で示す

4. DIY でできる防災 講師：ダイキ株式会社

- ・地震に対する家の防災対策が必要であり、家の耐震化、家具の固定・転倒防止について商品の機能説明、実験が行われた。
- ・特に家具の固定対策の用具が開発されており、分かりやすく効果が示された。
- ・部屋にはガラス戸、窓、戸棚などガラスが多くガラス飛散防止シートののり付け方法も実験展示された。

5. 東日本の教訓から考える実践的な自主防災組織活動 講師：仙台市福住町内会 菅原康雄会長

- ・発災時に地域を守るため、基本的には行政に頼らない地域力が好ましい
最低3日間耐える、荒浜小学校（5階建て3階まで浸水）では屋上に3日間避難した
- ・名取市閑上地区では一瞬にして洗い流され、2万人が溺死した僅か1時間の事だった
- ・中野小学校（3階建て）屋上に650人が避難、150人が津波にのまれた
行政は最初津波高さ1~2mと放送したが実際には7~8mの高さで犠牲者は多かった
- ・堤防は上流では丈夫だが、下流は崩壊、河川では8km遡上した
- ・津波ではヘドロが50cmもたまっているが、大雨ではヘドロはたまらない

(1) 発災前の減災対策、住民は地域防災力に何を求めるのでしょうか

「人を教えるのは人しかない 常の訓練が必要である」
訓練の経験は必ず生きる。減災対策をしておけば減災に役立つ

① みんなの気持ちの中にあるもの

- ・出来るだけ災害が少なくなるように、「いのちを含めた減災」
- ・地域や家族のお年寄り等どうしよう「災害弱者の名簿と処遇」
個人情報問題の指摘→目的賛同者の名簿、非賛同者は外す？
- ・簡易トイレの衛生対策 避難所でトイレ問題が
起こる → 食べない、飲まない、出さない？
犠牲者も出る

② 指定避難所に必要なもの

- ・地域リーダーが運営する
- ・在宅避難者を指定避難者と同等とする
- ・指定避難所にないライフラインの設置
- ・同上 の備蓄 簡単な食料品、冬場暖を取れるもの
- ・同上 となるすべての公共施設に食料など簡易なもの
の備蓄

- ・動物の同伴避難 必ず避難場所を確保事前の取り決め



菅原康雄講師

→ 動物は 10 日経過すると癒しになる

(2) 福住町住民がとった行動（発災前）：

「訓練で出来なかったことは被災時に出来る筈がない！」

「常の訓練が実を結んだ！」

① 福住町住民みんなの行動

- ・「出来るだけ行政に頼らない自主的行動」、「発災から 14 日目に自分たちでのりきった」
- ・名簿による高齢者の安否確認は 1 時間で終了した
- ・「町内集会所に避難」、出来るだけ指定避難所に行くな！救急車支援呼び出しは 60%が自分で出来る
- ・簡易トイレと瓦礫置き場は公園の近くに作った
- ・朝食準備は避難所でプロパンガスを使用
- ・支援物資は避難所の人目に付くところには置かない、ケンカのもと

(3) 発災直後福住町支援活動

① 福住町の行動

- ・災害時相互協力協定 → 祭りや防災訓練に参加、日頃の交流を大切にした
- ・他助に奔走 → 公的援助の届かない地域へ物資支援をした
- ・メンタルヘルスケア → 動物による子供・被災者の心の癒しを行った

(4) 発災後の教訓

- ・有料道路の活用（高速自動車道が津波浸水の防波堤となった）
- ・お寺の避難所利用法
- ・求められる女性リーダーの目配り、気配り、心配りの特徴を活かす
- ・防災は歴史に学べ（災害は繰り返す）
- ・その他 13 項目

(5) 最後に・・・

「止むことのない災害に強い危機管理意識をもって、自分が助かる術を真摯に検証し、たった一つの大切な命を守りぬく強固な意志を貫く事である」

6. 自主防災組織の広域連携

講師： かがわ自主防災連絡協議会
岩崎正朔会長

(1) 地域概要（香川県丸亀市川西地区）

- ・人口約 7,000 人、自治会数 46、世帯数約 2,700 戸
- ・一級河川と木川の左岸に位置
- ・南北 56km、東西約 1km、面積 4.3km²

(2) 防災活動への取り組み

① 第 1 期創設期（H13 年～H17 年）

- ・啓蒙活動「北淡町震災公園」や「人と防災未来センター」の見学、研修
- ・地域内人材の探索 女性、特殊技術職、

② 第 2 期成長期（H18 年～H21 年）

- ・防災会員ユニホーム採用
- ・小、中、高校と防災研修を開催 → 小学校 6 回/年、中学校 2 回/年、高校 1 回/年
- ・防災まちづくり大賞総務大臣賞受賞
- ・地域住民より年会費徴収 1,200 円

③ 第 3 期充実期（H22 年～H25 年）



岩崎正朔講師

- ・東日本大震災へ3回支援（石巻市、陸前高田市）
炊き出し提供、讃岐うどん、80万円費用
- ・県内自主防災会の活動支援事業の立ち上げ
活動程度 B,C クラスの活動アドバイス支援（街歩き、訓練、向上強化）

(3) 広域連携のしくみ作り

① 自主防災組織相互

- ・人的ネットワークの形成を大切にしている
- ・それぞれの弱点を補完＜資材の貸し借り、訓練指導者の流用＞
- ・親睦会の交流拡大

② 企業、団体連携とりくみ

- ・地域情報誌の配付による訪問活動
- ・地域防災訓練の呼びかけ
- ・地域イベントの招待地域運営トラブルの相談、支援

③ 広域連携の取り組み状況

- ・休止、活動低迷中の組織に対する訪問活動、訓練、研修の実施
- ・活動活発な組織が訓練支援、指導を行っている

(4) 今後の展望と課題

① 自主防災相互の連携

- ・次世代のため、平素から広範囲な人的交流が不可欠
- ・被災すれば相互支援による復旧活動は起こる

② 企業・団体の連携

- ・地域と企業の双方に成果が見える取組み
- ・成功モデルを地道に増やす努力をする

7. 講師とともに語るシンポジウム

司会： 広島経済大学教授 松井一洋氏

講習会の総括として下記4項目に絞られ、グループ毎にテーマを設定して討議が行われた；

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> (1) 行政に頼らない地域力 (2) 訓練のあり方 (3) 広域連携 (4) その他 |
|---|



司会 松井一洋氏



岩崎正朔氏と菅原康雄氏



グループ討議



グループ討議



グループ討議

(1) 行政に頼らない地域力

- ・菅原講師：今でも何かすると行政に頼る考えがある、又町内会会長もいる地域住民が出来ることは自分たちで取り組む事だ
- ・岩崎講師：災害が起これば自分の地域には自衛隊善通寺部隊がいるが高知県に派遣されるので、地域で守り対応する
- ・菅原講師：「先ず逃げる」地域の減災、防災、子供の防災教育には自然体で教えて中学生の力が期待できる、学校を休ませて訓練参加は効果的だ。住民が出来ることを取り入れよう。
- ・出席者：多くの地域では組織力が弱く、現状では行政の支援、指導は必要であるがあるべき姿としては組織で取り組む事を目指す。
- ・菅原講師：被災時は公助は期待出来ない、自助でなければならぬ、行政と民間とのコラボレーションとなる。
- ・岩崎講師：行政との連携は大切であり、大人の付き合い。

(2) 訓練のあり方

- ・岩崎講師：会長が1年ごとに交代する不満があり、3代の会長が話し合う事例がある。また防災訓練の名称を魅力的で遊び行事と兼ねたものにした事例もある。
- ・菅原講師：夏まつりに合わせて子供の遊びに興味を持たせた防災・防犯に関する訓練を実施した。
- ・出席者：訓練の目的は名簿づくり、避難訓練、実際効果が期待できること、子供の防災教育、特に中学生は役立つ。今年は自助をテーマに10町内会、1学校区同時に訓練する。

(3) 広域連携

- ・岩崎講師：市内の優れた町内会が中心となって輪を広げて行う訓練をしている。昼間住民が少ない時に企業の支援をしてもらう。又地域は企業の地域でのトラブルに対してとりなしをして相互に Give and take の協力をしている。
- ・菅原講師：顔の見えるボランティア、他地域と協力提携するなど全国に発信して多くの地域と連携している。

(4) その他 :

- ・出席者：女性の防災活動への進出を期待
- ・菅原講師：男性が認め、女性を防災活動に入れる
- ・岩崎講師：お母さんと小学生との組み合わせの防災訓練を行う

- ・出席者：女性としての活動経験から取り組むべき課題は見えているので協力して地域の活動に取り組んでいる。なお家族の理解を得ることも必要です。
- ・出席者：学校防災訓練についてカリキュラムは？
- ・岩崎講師：家具転倒、救出訓練、トリアージの訓練、釜石の奇跡などあり。

8. 自主防災討論のグループ発表まとめ 司会： 広島経済大学教授 松井一洋氏
 参加者 60 人は 9 班に分かれてそれぞれテーマを設定して課題と解決手法を討議し
 まとめ、発表した。
 討論テーマに対して①現状、②目指すべき姿、③目指すべき姿を実現するための
 方法としてまとめた。



グループ討議の発表



グループ討議の発表

9 班の発表に対して各講師のコメントは次の項目であった；

- ・コミュニケーションと信頼関係（菅原講師）→ 物事を決める基本
- ・防災訓練（岩崎講師）→ 大型企業の協力で訓練の推進、防災グッズの整備が進む
- ・情報伝達（岩崎講師）→ 無線機、ローテクの使用活用実施
- ・子供の参加 → 地域災害の伝承、防災教育の促進する
- ・女性力の広がり→ 女性の防災・啓発活動への参加で女性の優位性を発揮

研究会の提言：

「本日の研究会を契機として県内の自主防災組織の相互連携、広域連携のためのしくみ作りを強力に推進することとしたい！」

9. 閉 会 広島県危機管理監消防保安課長 藤井修二氏
 県内のひろしま防災士リーダーに呼びかけ自主防災研究会を開催したが、皆さん熱心に参加されました。ここで得た成果を各自のレベルの向上に活かすと共に地域の防災活動に役立てるよう期待します。



広島県消防保安課長
 藤井修二氏

10. 感想

- ・山崎講師の「リーダーシップについて」の話を聞き、対象業務や環境によりリーダーシップの条件は異なるが、普遍的共通した資質があることを知り勉強になった。
- ・菅原講師から「福住町内会震災記」の話しを聞き、講師自身被災体験者で、現在も復旧・復興に努力され、多くの課題を抱えながら防災に取り組んでおられるのでお話を切迫力があり被災地の実態に関心深く聞いた。
- ・岩崎講師の「自主防災組織の広域連携」の話しでは過去大きな震災がない地域での自主防災組織を立ち上げには現在安全で問題がないため、多くの住民には自主防災組織設立の理解が低い。その中で香川県一の自主防災組織を設立、広域連携へと計画を進めて来られた。その企画、推進、行動力、フォロアーの統制力等の話しは勉強になった。
- ・グループ討議は9班に分かれて行われ、発表された。テーマの現状課題、あるべき姿に向けての解決法について発表され、相互に参考になった。
- ・広島県担当部門による南海トラフ巨大地震による被害想定結果の説明や土砂災害のポータルサイトの使い方などの話は有益であった。
- ・今後も我々防災士は知識や防災技術を向上し、相互の連携、協力を密にして防災・減災の啓発、推進活動に取り組みねばならない。
また子供の防災教育・災害伝承、女性防災活動の拡大・向上など取り組むべきテーマは多い。今回の自主防災研究会の内容は今後の防災士活動に活かされる事が期待される。

(広島県支部広報担当 桑木)